

○講 演

日本の大衆文化・大衆芸能の発達と役割語について

講師：金水 敏 教授（大阪大学大学院文学研究科）

マンガ、アニメ、ゲームに代表される今日の日本の大衆文化（ポピュラーカルチャー）において、役割語が果たす役割が小さくないことは既に認識されているところである。これは、画像だけでなく台詞が、役割語によって発話者のキャラクターを描写する力を与えられているからだと言明できる。このことは、マンガ・アニメをそのまま文字化したようだと評される「ライトノベル」の盛行からも裏付けられる。ライトノベルで有名になった作品はアニメ化、コミック化が進められるなど、テキストを軸としたメディアミックスが展開されている点も重要である。この講演では、このような展開が実は江戸時代あるいはそれ以前に起源を持つ浄瑠璃、落語、講談、浪曲等においても認められることを指摘し、役割語と大衆文化・大衆芸能がお互いを強化する形で発達してきたことを主張する。